

えいらい

No.2

平成 21 年 11 月発行
発行元/財団法人永頼会 松山市民病院11
2009〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者/院長 山本祐司 編集/松山市民病院広報委員会

- 今号のトピックス
- ◇巻頭言
 - ◇臨床の現場から：整形外科（膝関節）
 - ◇きらり WORKS：薬局
 - ◇お知らせ
 - ◇外来診療担当表

変化の時代に



副院長(内科・消化器科) 水上 祐治

平成10年当院に着任してから11年が過ぎました。その当時、社会保障制度が大きく変わろうとしているということを感じてはいましたが、もとより予見する能力がなく、自分自身の診療スタイルはそれまでのやり方に多少の改善を重ねてきたというのが実状です。振り返ってみてその後の改革は大規模で慌ただしく、当時病院では、外来も入院も、急性期も慢性期もどのような患者さんでも受け入れ対応するという未分化な状態であったものが、病院機能が分化し、役割はかなり明瞭になってきました。

その中でも病診連携は広く普及し、医療供給体制の基盤になってきました。診療所の先生方からは毎日多くの患者さんを紹介していただいております。呼吸器専門のY先生、CT、MRIなどない状況で、この症状は何かおかしいと素晴らしい臨床の勘を働かせて送られてきます。こちらは何かあるはずと慎重になります。プライマリーケアの鑑の

ような先生です。肝疾患を大勢診てられるI先生、IFN治療、定期的画像検査など理想的な病診連携が出来上がっています。元々消化器専門のY先生、N先生、よくこの段階で診断されたなあという早期癌患者さんを何人も紹介していただいています。低侵襲治療（内視鏡切除）につなげていますが、安全、確実に切除できるかこちらの実力が試されます。

この11年、他にも様々な診療所の先生方からご紹介を受け、感謝しております。それぞれの先生の診療スタイルも大分判ってきました。人間関係も密になり、チーム医療の趣を呈しています。

紹介状に具体的には書かれていませんが、私たちに要求される診療レベルは年々上昇しています。多くの患者さんを経験させていただく中で、さらに技術を磨き、安心して紹介していただけるようにしたいと心掛けています。

自民政権の下、不満や不安が広がり先の選挙では民主党政権が選択されました。今のところもやもやとした気分が少し晴れ、政権交代にそれなりの効果が出ていますが、医療制度の見直しがどのようになされるか大いに気になります。病院への手当が喫緊の課題との意見もみられますが、限られたパイの中での配分の話では思いは複雑です。基本的に診療所の先生方との関係は競合的ではなく協力的、補完的なものであり、診療報酬全体を引き上げる時期にきていると思います。

政策の優先順位が決まらず先行き不透明で、変化の時代は続いています。医療は極めて厳しい状況に置かれています。しかし、政府がどこに舵を切ろうとも、私たち病院勤務医にとって診療所の先生方との病診連携を強固にし、患者さんに最良の医療を提供できるように研鑽を重ねることが最善の道であると思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。